

## 過去…

越後（新潟県）北部の中心的存在であった村上城は、標高135mの臥牛山、通称「お城山」に築かれた梯郭式の平山城です。本丸、二の丸、三の丸、山麓の城主居館跡から成り、鎌倉時代、坂東八平氏の出自である小泉荘地頭職の小泉氏を祖とする本庄氏が16世紀初頭に築城した中世城郭が原型です。本庄氏は、繁長（1539～1613）のときに



修復中の出櫓台石垣

ひとときわ勢力を得て、揚北地方（新潟県下越）の領袖に成長し、周辺の色部氏、鮎川氏などと争い、また、上杉謙信に従い、川中島などへも出兵します。永禄11年（1568）、武田信玄に呼応した繁長は、謙信に叛きます。繁長謀反の報に接し、謙信は自らも岩船方面から上陸し、村上城を包囲しました。四方を日本海、三面川、瀬波の丘陵、湿地帯のそれぞれに護られた金城湯池の村上城は、およそ1年の籠城戦に堪えますが、やがて伊達氏、芦名氏などの仲介で和議が成立します。

天正18年（1590）、当時天下を手中にしつつある豊臣秀吉により、天正16年の庄内出兵を私戦禁止令違反に咎められ、繁長は改易され、村上城は、直江兼続の弟である大国実頼の預かりとなり、春日元忠が城代として入ります。このころ作成された『瀬波郡絵図』に、村上城は、「村上ようがい（要害）」として描かれており、当時、既に城下町が形成されつつあり、山上には多くの建物があったことがわかります。その後、村上城には村上



発掘調査が行われた櫓跡

（手前の礫集中部分は雨落し遺構、空白部分は入口）

頼勝、忠勝が入りますが、元和4年（1618）、家中に内訌が生じて断絶となります。これに次ぐ堀氏によって村上城は近世城郭として次第に整備されてゆき、続く本多忠義の正保年間（1644～1648）の城下絵図では、本丸の三層天守櫓を始め、二の丸、三の丸の諸櫓、長大な石垣が



天守台礎石跡

さらに松平直矩が播磨国姫路から15万石で入ると、村上藩領は最大となり、越後の雄藩に成長し、その後、榊原政倫、松平輝貞、間部詮房などの諸氏を経て、享保5年（1720）

に内藤式信が入り、明治維新までの約150年間、内藤氏の治世が続きます。幕末・維新の動乱期、村上藩は、奥羽越列藩同盟に与しますが、家老鳥居三十郎を中心とする抗戦派は羽越国境へと兵を進め、城を放棄したことにより、城下は戦禍を免れます。

寛文7年（1667）、落雷による火災で天守櫓が焼失したほか、江戸期のたび重なる火災、明治期の取り壊しや払い下げなどによって、建物こそ現存しませんが、本丸の8mを超える石垣をはじめ、隈なく山上に巡らされた苔むした石垣、天守櫓や諸門の礎石、良好に残る井戸、馬冷やし場などが往時を偲ばせています。また、山下には、一文字門や下渡門の石垣、城下三ノ丸の土塁などが残っています。さらに、山中の東斜面には、本庄氏時代の虎口、帯曲輪群、竪堀などが残り、戦国時代の面影を色濃く伝えています。中世と近世の遺構が渾然一体となって残っている姿が貴重であり、平成5年6月8日に国の史跡指定を受けました。

## 現在…

無双の名城も、歳月には敵せず、現在、随所に綻びが生じ始めています。とりわけ、長きの風雪を耐え忍んできた石垣に孕み出しが生じているため、平成12年度から崩落危険箇所石垣の解体、積み直しを軸とした整備事業が順次進められています。国の史跡であるため、まず、文献調査や古写真の解析などをもとに、十分に検討が重ねられて整備方針が決められます。また、発掘調査によって得られる成果も参考にされます。これまでの調査では、櫓礎石、柱穴、排水処理施設、庭園泉水付随遺構などが検出されています。さらに、工事も慎重に行われねばならないため、修復には長い時間を要しますが、おざなりではない手法で、先人の遺産を100年先へも正しい姿で継承することをめざしています。

村上市の中心部に位置する独立丘であるお城山は、市民の憩いの場として親しまれ、ちいさな子供からお年寄りまで、人の姿が絶える日はありません。

とくに、満開の桜に彩られる春、澄みきった空気のもと、佐渡を一望にできる秋の景色などは、すばらしいと言うほかありません。また、今も街の随所に、旧武家屋敷、枡形跡、鉤小路などが見うけられ、かつての15万石の城下の繁栄のよすがとなっています。



天守台から望む佐渡ヶ島



臥牛山遠景

（手前は三面川）

背景：享保7年越後国村上城絵図（村上市指定文化財）

## 国指定史跡

# むらかみじょうあと 村上城跡

村上市教育委員会 2009



天守台石垣



本丸跡

四百余年の幾星霜、  
不易と流行：  
村上城を訪ねて

# 上

本庄繁長馬印



内藤家家紋「下がり藤」



村上城復元想像図



# 村上城歴代城主 在城期間

本庄繁長 （？～天正一八年）	（？～天正一八年）	？～一五九〇
春日元忠 （天正一八年～慶長三年）	（天正一八年～慶長三年）	一五九〇～一五九八
村上頼勝 （慶長三年～元和二年）	（慶長三年～元和二年）	一五九八～一六六六
村上忠勝 （元和二年～元和三年）	（元和二年～元和三年）	一六六六～一六七七
堀直奇 （元和四年～寛永一六年）	（元和四年～寛永一六年）	一六八七～一七〇九
堀直定 （寛永一六年～寛永一九年）	（寛永一六年～寛永一九年）	一七〇九～一七二〇
本多忠義 （正保元年～慶安二年）	（正保元年～慶安二年）	一七二〇～一七三〇
松平直矩 （慶安二年～寛文七年）	（慶安二年～寛文七年）	一七三〇～一七五五
榊原政倫 （寛文七年～天和三年）	（寛文七年～天和三年）	一七五五～一七六〇
榊原勝乗 （天和三年～宝永元年）	（天和三年～宝永元年）	一七六〇～一七六二
本多忠孝 （宝永元年～宝永六年）	（宝永元年～宝永六年）	一七六二～一七六三
本多忠隆 （宝永六年～宝永七年）	（宝永六年～宝永七年）	一七六三～一七六四
松平輝貞 （宝永七年～享保二年）	（宝永七年～享保二年）	一七六四～一七六九
間部詮房 （享保二年～享保五年）	（享保二年～享保五年）	一七六九～一七七〇
間部詮言 （享保五年）	（享保五年）	一七七〇～一七七五
内藤式信 （享保五年～享保一〇年）	（享保五年～享保一〇年）	一七七五～一七八〇
内藤信輝 （享保一〇年）	（享保一〇年）	一七八〇～一七八一
内藤信興 （享保一〇年～宝暦一〇年）	（享保一〇年～宝暦一〇年）	一七八一～一七八二
内藤信旭 （宝暦一〇年～宝暦一二年）	（宝暦一〇年～宝暦一二年）	一七八二～一七八三
内藤信凭 （宝暦一二年～天明元年）	（宝暦一二年～天明元年）	一七八三～一七八四
内藤信敦 （天明元年～文政八年）	（天明元年～文政八年）	一七八四～一八三〇
内藤信親 （文政八年～元治元年）	（文政八年～元治元年）	一八三〇～一八六八
内藤信民 （元治元年～慶応四年）	（元治元年～慶応四年）	一八六八～一八六九
内藤信美 （慶応四年～明治二年）	（慶応四年～明治二年）	一八六九～一八七〇

## 村上城関連年表

中世	永正 6年 1509	「村上」の地名の初出 『耕雲寺領納所方田帳』
	永祿 11年 1568	本庄繁長、武田信玄と結び上杉謙信（輝虎）に叛く。飯野ヶ原などで戦い、村上城の防御施設を強固にし、一年間の籠城戦を展開するも、翌12年、伊達輝宗、葦名盛氏の仲介で和議成立。謙信に降る。
	天正 16年 1588	本庄繁長、庄内方面へ出兵。十五里原で最上義光勢を破る。
	天正 18年 1590	庄内出兵が私闘を禁じる豊臣秀吉の勘気に触れ、繁長、村上を除かれる。村上城は直江兼続の実弟、大国実頼の預かりとなり、城代として春日元忠が入城する。
	慶長 2年 1597	「瀬波郡絵図」に村上城が「村上要害」として描かれる。
	慶長 3年 1598	村上頼勝が加賀国小松から入り、城下の改造に着手。
	元和 4年 1618	堀直奇が越後国長岡より入り、石垣を築くなど、さらに村上城の近世城郭化を行う。
	寛永 10年 1633	羽黒神社が造営され、「村上大祭」の起源である羽黒神社の祭礼が始まる。
	寛永 16年 1639	堀直時（直奇弟）、3万石で村松（現五泉市）に立藩。
	慶安 2年 1649	松平直矩が播磨国姫路より入り。15万石を領し、村上藩領最大となる。家臣数の増加に伴い、城郭と城下の改良・拡張を行う。
	寛文 7年 1667	榊原政倫が播磨国姫路より入り。村上城天守櫓、落雷により焼失する。以後財政難により再建されず。
	元禄 2年 1689	松尾芭蕉が「奥の細道」紀行の道中、村上に立寄り二泊。
	宝永 元年 1704	本多忠孝が播磨国姫路より入り。
	宝永 7年 1710	松平輝貞が上野国高崎より入り。
	享保 2年 1717	正徳の治の功臣、間部詮房が上野国高崎より入り。
	享保 5年 1720	内藤式信が河内国大連より入り、明治維新まで内藤氏の治世となる。
	嘉永 元年 1848	飛鳥沖にロシア船が出現する。村上藩、海岸防備に出兵。
	慶応 4年 (明治元年) 1868	村上藩、奥羽越列藩同盟に依り戦う。羽越国境方面が主戦場となったため、城下は戦禍を免れる。
	明治 2年 1869	村上藩、版籍奉還す。家老鳥居三十郎、新政府の裁きにより、村上市塩町安泰寺にて切腹。
	明治 3年 1870	内藤信美、新政府に村上城放棄を建言する。
	明治 4年 1871	廃藩置県により、村上県を経て新潟県へと編入される。
	明治 11年 1878	村上藩旧士族ら、鮭卵の人工孵化事業を開始。
	明治 15年 1882	村上藩旧士族ら、村上鮭産育養所（村上城跡保存育英会の前身）を設立。
	昭和 17年 1942	米軍機の襲来に備え、臥牛山頂に、監視哨が設置される。
	昭和 32年 1957	村上城跡、県の史跡に指定される。
	昭和 39年 1964	新潟地震起こる。このとき村上城石垣の一部も崩壊。
	平成 5年 1993	村上城跡、国の史跡に指定される。
現代	平成 12年 2000	平成の石垣修復工事が始まる。

### 東斜面側遺構群



東虎口

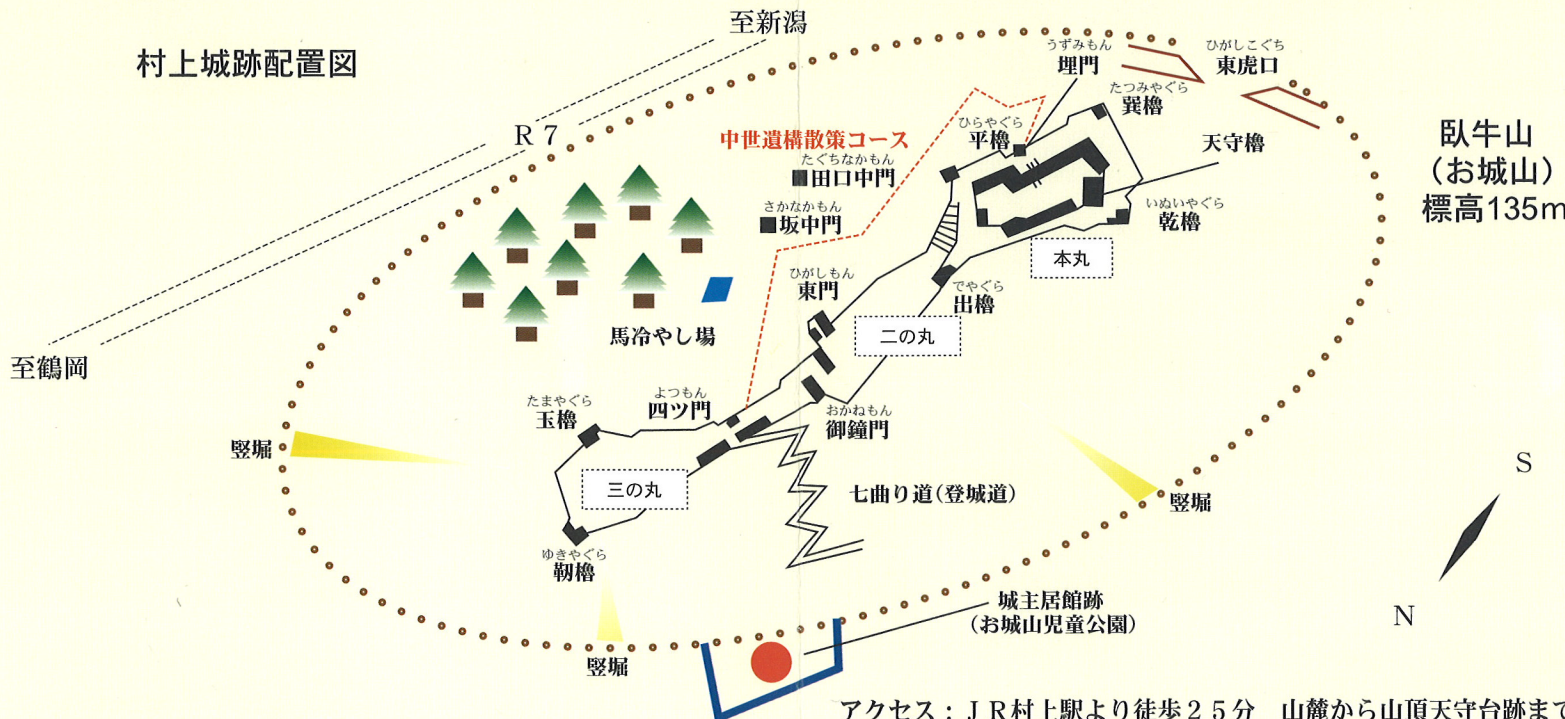


馬冷やし場



中世遺構散策コース

### 村上城跡配置図



アクセス：JR村上駅より徒歩25分 山麓から山頂天守台跡まで20分